

常盤塾議事録

日時：2017年1月14日（土）15:00～18:00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：常盤先生、片平先生、松崎さん、松山さん、安梅さん、古城さん、今田さん、丸山さん、出井さん、昌子さん、松永さん

アジェンダ

1. 一分間スピーチ
2. 常盤さんのお話
3. 「弱者の戦略」発表

1、一分間スピーチ

松山さん

中国に行った時、空が晴れていて北京の人も喜んでいました。

帰りに1948まで皇帝がいた故宮（紫禁城）に行った。

たった100年前までそこで政治が行われていたという現実を考えると、最近の中国は急成長をしている、近代化の勢いを肌で感じた。

帰りに新幹線に乗ったらまだまだ雑だった。

松崎さん

年始を東京で過ごした。

ラグビーを見てきた母校が17年ぶりに試合。

結果は惨敗だったが応援に来ている人はすごくたくさんいた。

相手校との目標の差がプレーに出ていた。

準備や目標のあり方がすごく大きい。

ずっと決勝戦で当たったりする学校は他の学校とレベルが違う。

丸山さん

土井善晴さんの説では和食には二つの方向がある。

- 1、汚れを取ること：例：白米

神様の存在を意識、ハレの日のもの

2、丸ごと食べる：一つの命を全部とり入れる（玄米）ケの時

→この白黒は陰陽に通じるのでは？

アロマにもヒノキ（白い木）が入っている、魔除け？

最近ハレとケの区別がなくなっている。

ハレの日という概念がない（例：スーパーが新年からやっている）。

片平先生

スライドショー

京都の西陣織を見てきた。

完成品で売ろうと思ったが、世界で認められたのは素材だった。

和を売らない、忍び込ませる。中にはいけない、外に出る。

和とか日本、ブランドを外に出してはいけない。

5人の人間国宝が集まって一緒にブースを出したりしている。

昔の技術を磨いているが、科学で近道をしているところがある。（木の水分含有量やアーチなど）

桶を100万円で買う人の心理とは？

相手側から見るのが大事。

エルメスの人曰く、10年～30年前から買おうと思っているストーリーがあるはず：三代にわたって受け継がれる商品

ブランドの発祥＝自分の牛に焼印を押したこと

エルメスのようなブランドは一段レベルが違う。外に押し出さない。

安梅さん

中国の幼稚園を見てきた。

中国の強さと脆さがわかった。

子供の創造性を強制している。

海軍・空軍・陸軍というクラス分けをしている。

これは強みだが同時に弱みである。

昔は詰め込みだったが今はクリエイティブを強制している。
子供の教育を変える国は強いけど怖い。

これからは爺さんと子供が未来を作る。
小さい頃に爺さんが「自分は後、人は先」を言い続けるべき。
江戸時代の香りを引き継ぐ。

4、5歳は基本的な人間観を身につける時期

そのためには3世代で暮らすことも大事？

父親がどっか行っちゃうとか、次男で丁稚に出されるとか、そういう人生を歩むのが良い。

下町では近所のおじさんおばさんが子供に関わってくる、そういう仕組みが心に残る。

街全体が暖かい目を注いでいる。

片平先生、中央区に行く

副区長がいい人

兜町とか日本橋、築地などブランドの塊

小学校を解放しておじいさんおばあさんと子供が交流できる場を作りたいらしい。

最近、マンションのエレベーターとかで子供に話しかけると拒否されることも。

古城さん

ラスベガスでショーがあった。

そこでホンダの技術ライディングアシストが高評価
低速度でも倒れない。

タイヤが低速度時に自動で前に出ることで安定

カメラの手ぶれ補正とも関係ある？

アシモみたい

研究というのは何と結びつくかわからないのでちゃんとやっておくべき。

出井さん

ワンワールドワンヘルス (ワンヘルス)

2004年に野生学会保護学会

人、動物の健康両方が成り立つことが大事だから動物の健康も考えるべきという考え

日本医師会と日本獣医師会が協力。製薬会社も参加すべきだがまだ協力できていない。

人のことを考えるときに動物や環境を考えるという動きは広まっているなど感じた。

動物の治療方法を人間に応用できないか議論されている。

昌子さん

(12月からオプジーボ問題に巻き込まれて年始を過ごした)

大きい大根を3本もらい切り干し大根をつくったところ、意外と簡単にできた。

やってみればなんでも意外と簡単。

3日~1週間干せば良い。

昔はどこでも干していたがその文化がなくなってきた。

干し柿を作ろうと思った時はカラスに取られた。

小さい鳥だけ取れるような仕組みの餌場があるが、カラスは頭が良くて取って行く。

松永さん

群が研究の対象になっている

70年と100年ではコンピューターの世界では全然違う。

チューリングマシンは法則が同じなら模倣できる

=いろんなメーカーが作っても統合できる。

それからグローバリゼーションが始まった

今は模倣できるものしかない

片平先生の発表の西陣織などは、模倣できないものがベースにある。

AIは特徴がつく

特徴が時間とともに変わりながら発展するようなコンピューティングを始めて
いる

自分の評価値を自分で決める（セルフリアレンス）

周りの環境から判断、自律して行動する

今までのコンピューターではインターフェースが良いものが良いと言われてい
たが、これからはインタラプトが大事になってくる

相手の存在価値を考えるのが大事になってくる

環境から学ぶという姿勢になってくる

近いのは道元の言葉「仏性は周りの環境にある」

ASEAN の人たち

それぞれ違うことを前提にしている（国や民族）

違うけど一緒にやるといいことが起きる、という信念

南アフリカのガラパゴスとエンジェルホール（世の中から隔絶された地域）で
は、75%の生物が他にいない生物で逃げない。

弱者の戦略に通じるところがある。

環境の方に適応しようと思うと戦わないのかも？＝棲み分ける仕組み

鈴木

カラスの頭が良い。餌をあげにいくと鳴いて可愛い。

秋元

高校サッカーの決勝戦の観客の動員が5万人

一方プロの試合は1万2千人

単純なスキルだけじゃないもの、青春とかドラマに感動するのだと感じた。

モノもそう。

一人一人が一戦にかける思い。

京都の方の思い

若い職人さんは、最初は自信がなかった。

世界に出すと注目されるプラスのスパイラル

京都の奥にいる人がミラノとかに行くようになった。

多種多様な露出から色々声がかかる

常盤先生

あらゆるものはつながっている

物事を分けて考える癖がある。

しかしふと考えれば、「東洋と西洋」などはグローバル化で意味がなくなっている

他にも「今と昔」もつながっている。

人間と自然をはじめとして、地球上のすべてのものはつながっている。

→物事の境界線が溶けてきているのではないか。

みんな仲間。

そこから教えももらえる

今回のすべての話がそう聞こえた。

こだわりを捨てて心を開くと新しい気づきがある。

そこにこれからの生き方があるのでは？

分類ばかりは馬鹿らしい。

2、常盤さんのお話

人は一人では生きられない

最近、アルフレッドアドラーの本が売れている。

ウィーンで生まれた三人の学者

フロイト、カールユング、アドラー

アドラーの共同体感覚：人間は個人では生きられない。

周りと繋がっていることを感じることで、一人では成しえなかった新たなことを達成できる。

人は弱い。限界を認めた上で、他者と結びついて生きること。その認識が必要。

人類の幸福に大事なものは、「共同体感覚 (Mitmenschlichkeit)

日本企業の素晴らしいところは、共同体精神。みんなのために頑張ろうという精神。

ところが現在はこれが弱まっている。雇用形態の変化もある。

会社とは、ある条件のもとで人が集まっている人工的/人為的組織であり、共同体感覚とは、日常的に無意識的に湧いてくるもの。

会社はゲゼルシャフト=「利益共同体」

社会はゲマインシャフト=「生活共同体」

自然発生的なつながりを感じる事が大切。

例：東日本大震災のとき「絆」が盛んに言われたが今は誰も言わない。人工的な流行でしかない。

「絆」の辞書的な意味は、「犬をつないでおく」。そこから物と物をつないでいくという意味。

「絆」が美しい言葉として存在するのは、人工的。人と人が繋がっていることを意識的に言語化した言葉。美しすぎる。共同体感覚はそれとは違う。無意識的なつながり。

人間存在の本質は「じんかん（人の間）」にあり。

出合いの大切さ。

人が集まると、1人ではできないことができる。「超個人」=個人を超えた個人。集団の中における個人は、超個人。例えば、オリンピックの時の日本の400mリレー。4人とも10秒切っていないのに40秒を切れる。集団の力。超個人が集団を形成したとき、集団の力が生まれる。

=集団に向けるエンパワーメント。

お坊さんのお話。自力と他力。他力本願が悪いわけではない。

自利と他利。他利なんてないのでは。動物の世界を見ても、他利なんて存在しない。結果としてバランスが生じているだけ。自利も他利もない。他利を通して自利を得ようとしている。

3、「弱者の戦略」発表

企業には植物型と動物型がある。

企業経営は果樹栽培そのもの。

組織＝樹木

成果＝果樹

投資＝肥料

リスク＝天候・害虫

風土＝気候・土作り

成功にとって一番大事なのはタイミング。「年輪企業」は、毎年毎年成長するため、売れると思う新商品もあえて出さない。開発力や財務基盤がしっかりしているからこそ。

自らも柔軟に変化する「可塑性」を持つ。動けない植物は自分で環境を変えることはできないが、自分を変えることはできる。

例：アップルの復活。マイクロソフトとの提携。合理的な変化が重要。

植物にとって、土の上でのびることだけが成長ではない。地下の成長も大事。東芝みたいな企業は、土の上だけで成長した企業。

ヤシの木を育てる時、水が豊かなところで育てると、乾季になったとき水が足りず、ダメになる。厳しいところで育てると、乾季も生き残れるになる。

植物＝動かない動物。動きが動物ほどはつきりしないだけである。京都の中小企業もそれ。見えざる革新。

大塚商会は軍隊みたい。軍隊みたいに動くのはどうなの？

木村さんのリンゴ的な思い思いの経営をできるのとどう違う？

軍隊＝戦争のためのものでイメージが悪いが、勝つための組織としては優れている。イギリスの軍隊＝狼の習性を参考にしている。青山学院の陸上部はある意味、軍隊的。

企業にとって大事なのは選定。どこを伸ばしてどこから力を抜くか。植物も同じ。人間が人間を対象に研究しても限界がある。動植物から学んだことを人間

社会に活かすことが必要。

生物界の掟＝「弱肉強食」だけど、エコシステム（生態系）の循環＝「すべての生物が勝者」

「弱者必勝の条件」＝環境変化。弱者は複雑さや変化を好む。

植物の「**R** 戦略（ルデラル）」＝攪乱耐性型、動物の「**r** 戦略（レート）」＝増加率。中小企業やスタートアップ企業のお手本になる。

ダーウィン「人間が生き物の頂点に立っているのではない」、コペルニクス「地球が宇宙の中心ではない」

経済学＝条件設定の上になりたつ。経済合理性。

東海 vs 帝京。帝京は地域の子供達にラグビーを教える。内省可される。そうすることで、ラグビーに対する理解を深める。窮地に陥った時の自力をつける。

「拘束条件」。都合いいものは **if then** で考えるけど、都合の悪いものは **else** にしちゃう。EU の話。通貨は統一したけど、言語はしない。

passive なもの。「受け身」ではなくて「耳をすます」こと。三井の日本橋の神社。森ビルはビルを商材として考える。

自分の理論に合わせるために周りのものを捨象しちゃう。反対が抽象する。その議論がいかにも実体であるかのように現実世界に戻すから、問題が起こる。ロジカルにできる部分とできない部分がある。